



一般社団法人

日本小児看護学会

Japanese Society of Child Health Nursing

News Letter

日本小児看護学会 第29回学術集会を終えて

会長 松浦 和代
(札幌市立大学看護学部)

日本小児看護学会第29回学術集会を無事終了することができ、企画委員・実行委員一同、安堵しております。会期は2019年8月3日(土)・4日(日)、会場はロイトン札幌(札幌市中央区)でした。1337名のご参加を頂き、盛会となりました。参加内訳は、事前参加登録が798名、当日参加が450名、そして患者会コラボ企画・市民公開講座の参加が89名でした。

会長講演、教育講演、シンポジウム等によって、メインテーマ「小児看護の知を国際支援へ」に対する理解、そして国際連携への展望を共有することができたのではないかと思います。また、特別講演「伝えるのは命・つなぐのは命」(旭川市旭山動物園 園長 坂東元氏)におきましては、感動的な動画に引き込まれ、あっという間の1時間でした。さらに、患者会コラボ企画・市民公開講座「ダウン症児のためのダンススクール: ビジョントーク&パフォーマンス」は、2日目午後のプログラムであった

にもかかわらず、メイン会場の約9割が埋まりました。牧野アンナ氏(ラブジャンクス代表)と三好明子氏(北海道小鳩会会長)とのトークに加えて、ダンサー(スクール生)によるパフォーマンスが予想を超える迫力であり、参加者が総立ちで拍手と笑顔を送り、会場が一体となりました。フロアからステージに向かってバク転を披露するOBの飛び入り等もあり、ダンサーが発するパワー、身体能力の高さと柔軟さ、表情の明るさ、表現力の豊かさ、に驚かされるとともに、ダウン症のある人たちの可能性を改めて感じる機会となりました。

テーマセッション、一般演題も数多くのご発表を頂き、有意義な学術交流を図ることができました。末尾になりますが、会員の皆様のご参加とご協力に深く感謝申し上げます。大きな節目となる第30回学術集会のご成功を心よりお祈り申し上げます。



▲モンゴルのおくるみ



▲ラブジャンクス



◀企画委員・実行委員一同

新理事会の紹介 (Part 1)

理事長就任のご挨拶

会員みなさま、いつも学会活動にご理解とご支援をいただきありがとうございます。

昨今の新型コロナウイルス感染拡大の問題では、みなさまの生活にも様々な影響が生じご苦労されていらっしゃるのではないかと拝察いたします。様々な学会の中止等はまだまだ、小中学生、高校生の全国一律の臨時休校に伴う影響は比較にならないほど大きいこととします。お子さんへの対応に悩まれる医療関係者のご家庭も多いことでしょうし、何より子どもたちの心身面への影響も懸念されます。とくに、学校給食もなくなり、かつ、多数が集まる会食等も制限されているため、子ども食堂なども開催が難しいでしょうから、貧困にさらされているお子さんたちへの影響が心配です。

また、世界保健機構(WHO)の事務局長は2日の記者会見で、日本、韓国、イラン、イタリアの4か国の状況について「深刻な懸念がある」と発言され、国際的な影響も広がっています。子どもたちの生活をはじめ、多くの社会的影響が予測されても、「3月中旬までの2週間の対応が重要である」との判断での様々な措置ですから、何とか3月末には収束の目途がついて4月からはできるだけ通常の生活が戻ることを願ってやみません。

さて、2019年6月の社員総会後に現在の役員体制に代わって活動を開始しました。ご存知のように、学会のホームページもリニューアルされ、新着情報としてどの委員会からの情報発信なのかが明示されていますので、各委員会の活動がわかりやすくなったのではない

かと思います。さらに、マイページやメールマガジンも導入されましたので、ぜひ多くの会員の方々に登録いただき、タイムリーに情報がお手元に届くよう…と願っております。

2020年は「一般社団法人 日本小児看護学会」の前身である「日本小児看護研究会」が発足して30年という記念の年になります。6月27-28日に神戸で開催される第30回学術集会(学術集会長 二宮啓子先生)では、30周年記念事業として学会の30年の歩みを辿るパネル展示や会員みなさまからの自由な声をいただくボードの設置を予定しています。また、特別講演として日本人初の国連 子どもの権利委員でもいらっしゃる弁護士の大谷美紀子先生から「小児看護に子どもの権利の視点を」をご講演いただきます。さらに、人材育成事業として小児看護の人材を養成する2つのe-learning研修事業を開始する予定です。詳しくは、HPをご参照ください。

最後に、冒頭にも述べましたが、新型コロナの影響でみなさまにもご心配をおかけしていると思いますが、現時点では6月の学術集会是予定通り開催される見通しです。6月に神戸でお目にかかれることを楽しみにしております。

今後も学会活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2020年 3月吉日

● 一般社団法人日本小児看護学会 理事長 浅野 みどり



総務委員会

- 委員長：浅野 みどり
- 委員：塩飽 仁、山田 知子、新家 一輝、上原 章江、山口 知香枝、清水 いづみ

ご指名にあずかり庶務を担当しております。理事・監事、各委員会に連絡をする度に、緊張しながら本務にあたっております。本学会の成果が、築いておられます会員の皆様ならびに子どもと家族、そして社会へと、できるだけ円滑につながっていきますよう微力を尽くします。何卒よろしくお願い申し上げます。(新家一輝)

この度、総務委員会・会計を担当させていただくことになりました。主には学会運営に必要な予算案の作成、予算執行、出納帳の管理等を行っております。会員の皆様の会費からなる様々な事業の運営が円滑に進むよう、各委員会の委員の皆様のご協力をいただきましたら、役割を果たしてまいりたいと存じます。(山田知子)



新理事一同
2019年8月3日 札幌にて

学術・研究推進委員会

学術・研究推進委員会では学術集会の開催支援、研究助成や国際学術会議の発表助成、研究奨励賞の選考や学術・研究に関する事業を推進する役割を担っています。

学術集会は毎年1回開催されます。委員会では、学術集會会長・企画委員会との連携のもとで学術集会の企画運営の支援をしています。助成制度では、子どもたちの健康増進に寄与するため小児看護の実践・教育に関する調査・研究に対する「研究助成」、研究成果の国際学術会議での発表や、世界の小児看護実践者・教育者と交流し学会員が見聞を

- 委員長：楢木野 裕美
- 委員：内 正子、泊 祐子、小野 智美、武田 善美、小代 仁美、岡崎 裕子

広めるための「国際発表助成」を行い、わが国の小児看護の発展を図ることを目指しています。是非、ご応募ください。研究奨励賞制度は、前年度に小児看護学会誌掲載の論文の中から研究奨励賞論文を選出し、その執筆者を会員集会で表彰します。この制度を通して小児看護の実践、研究活動の発展に寄与していきます。

さらに学会員のニーズに合わせて、学術・研究推進に向けて委員会として取り組み、学会が社会貢献できるように活動を進めていきたいと思っておりますので、どうぞ、よろしく申し上げます。

広報委員会

- 委員長：上別府 圭子
- 委員：安田 恵美子、古谷 佳由理、小川 純子、西垣 佳織、田村 恵美、佐藤 伊織

広報委員会委員長の上別府圭子(かみべつぷ きよこ)です。

本委員会は、広報、主にICTを通じて学会活動を活発にし、学会の目的達成に寄与しようとする委員会です。学会ホームページには、小児看護の実践に役立つ情報や、小児看護に携わる看護師の学習の機会に関する情報、研究の推進に寄与する情報のみならず、他職種や子育て中の家族に提供できる情報まで掲載しています。またマイページを通じ各種手続きができ、30周年記念事業としてe-learningも始まる予定です。このほ

か、子どもたちの健康を守る環境を整えるために学会が行った政策提言を掲載したり、本学会が国際的なプレゼンスを示すために英語のリーフレットの改訂を計画したりしています。会員の皆様へは、ニュースレター(年2回)やメールマガジン(要登録)の発行も行っていますので、奮って登録をお願いします。また30周年を記念して、皆様から「ひとこと」を募集します!(別途ご案内いたします。)こちらも皆様のご参加をお待ちしています!

災害対策委員会

- 委員長：野間口 千香穂
- 委員：古橋 知子、田村 恵美、来生 奈巳子、竹内 幸江、鎌田 佳奈美、祖父江 育子、荒武 亜紀

災害対策委員会は、2011年3月11日に発生した東日本大震災を機に2013年4月に発足した委員会です。平時の災害対策と災害発生時の災害支援を中心に活動しており、委員は各地区の地区リーダーとしての役割を担っています。2019年は、佐賀豪雨や台風15号、19号によって相次いで災害が発生し、その都度、評議員や会員の協力を得て、情報収集とその共有を図り、学会での対応を検討してまいりました。また、福島県で東日本大震災を経験した看護師を講師にお招きして災害看護研修会を開催しました。研修会では、8年を経過した現在でも現地

の看護職が痛みを抱えながら災害対策に取り組んでいることに触れて、身の引き締まる思いがしました。

日本小児看護学会では、災害対策の中でも子どもと家族に対する中長期的支援に貢献することを目指して活動を行っていきたくと考えています。そのために、災害対策委員会では日頃より学会ホームページによる災害関連情報の発信、関連学会や団体とのネットワークの促進に努め、会員の皆さんが行う災害に備える活動、災害発生時やその後の支援活動に役立つ体制の充実に努めてまいります。

教育委員会

- 委員長：勝田 仁美
- 委員：友田 尋子、二宮 啓子、濱田 米紀、本田 順子

引き続き教育委員会を担当します勝田(兵庫県立大学)です。教育委員会は、5名で構成され、役割は、会員への教育面における貢献です。年1回の研修会では、これまでのアンケートによる希望や近年の小児看護の潮流などを勘案してテーマを決めています。今年度は「発達障害のこどもへの関わりへのヒントを得よう」のテーマで行いました。年1回の地方会では、全国様々な地区で小児看護実践の向上を目指して開催され、会員を増やす目的もあります。近年では岡山、宮崎、徳島などで行っています。そのほか、日本小児神経学会との共催で行う医療的ケア研修セミナーも含

め、3つが主な委員会の活動です。2018年度は、それらに加え、小児看護の人材養成PR研修「地域で暮らす医療的ケア児を支援する看護師を増やそう!」を神戸と東京で開催し、それをDVDに収録して、後日、会員ならだれでも見ることができるようメールマガジンでお知らせしました。

研修会や地方会は、会員であればほとんどが無料で学習することができます。小児看護を専門とする看護職が減少している昨今、研修会等における学びを子どもや家族に還元できるよう委員会としてこれからも発展していきたいと思っております。

選挙管理委員会

- 委員長：内 正子

今期の選挙管理委員会の委員長に任命された内正子です。

本委員会は、公正かつ中立な立場で、評議員選挙、理事選挙に関わる事項について、学会事務局と協働して、選挙を管理・執行しています。

評議員選挙は、会員の皆様の投票により行われ、理事選挙は評議員の投票により決められます。評議員および理事は会員の代表として、本学会の発展のために活動されることになります。

今期の委員会では、2020年度の評議員選挙に向けて、会員の関心を高め、選挙の投票率を高めるため、活発な啓発活動を行っていきます。また、選挙方法についても、皆様からのご意見にありましたWEB投票についても検討をすすめております。

本委員会の活動にご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

研究奨励賞受賞者より

● 旭川医科大学医学部看護学科 森 浩美



この度、論文「短期入院で手術を受けた学童期の子どもの思い」で研究奨励賞を頂きました。とても嬉しく思っております。研究にご協力くださいました皆様に心より感謝致します。

私は長い期間、臨床の看護師として小児看護に携わってきました。その中で、短期入院で手術を受ける子どもと多くの出会いがありました。その後、私は職場を大学に移し、今は学生と一緒に子どもへの看護を考え、実践しています。短期入院で手術を受ける子どもは緊張が解けないまま、翌日には手術室に向かいます。そして、手術が終わっても痛みや制限が多く、時に子どもは泣いたり、怒ったりしています。そのような子どもに私の立場から何かできることはないか、いつも考え続けています。その一つとして今回の研究への取り組みがありました。

研究では子ども自身からお話を聞かせて頂きたいと考えました。そのため、子どもへの倫理的配慮については特に注意を払いました。それは、対象者の選定、説明の仕方や同意の取り方、面接のタイミングや内容、緊張をほぐすような面接者の態度など様々です。

そして、子どもにお話を聞かせて頂き、子どもの悲しい気持ちやつらい気持ちを改めて知ることができました。その一方で、子どもは入院や手術は自分にとって大事なことと受け止め、親や看護師、入院仲間を支えられたことや前向きに取り組めたことなどについても語り、子どものたくましさ

も感じました。私たち研究者はそのような子どもの思いを発信したいと強く思いました。そして、その子どもの思いを臨床の看護実践にもつなげたいと考えました。この論文を臨床の看護師や看護学生の方々に活用してもらえると嬉しいです。

また、研究の計画を立て、面接を実施し、その内容を分析してまとめていく過程では研究仲間と議論を重ねました。その時間はとても有意義なものであり、研究仲間へ感謝します。加えて、論文投稿後は査読者の先生から多くのご指導を頂きました。その全てが論文をブラッシュアップさせていくためには欠くことのできないものであり、私にとってとても刺激的で貴重な時間でした。ご指導を受けられたからこそ、今回、受賞できたと思っております。先生にお会いして直接、お礼を申し上げることは叶いませんので、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

最後になりますが、これまで私は子どもたちから多くのことを学ばせて頂きました。それは、これからも続くと思います。子どもたちに感謝です。そして、少しでも子どもたちに追いつき、恩返しできるように、看護の質を高める努力を続けていきたいと思っております。

今後も小児看護学の知見を深め、学会員として、研究活動を継続してまいります。どうぞよろしくお願ひ致します。



「リレートーク」 ● 済生会横浜市東部病院 渡邊 輝子さん



自己紹介

横浜市鶴見区にある済生会横浜市東部病院で看護部長として3年目となりました。出身は神奈川県川崎市です。これまで遠くに引っ越すこともなく、生まれてから30km圏内で過ごしています。県内の大学の看護学部を卒業した後、そのまま大病院の乳児病棟に勤めました。あつという間に5年が過ぎて、大学の友人たちが大学院に進学していることに刺激され、修士課程に進みました。修士課程修了後は、がん専門病院で小児病棟に勤務したり配置換えで成人看護学実習の実習指導をしました。その間に小児看護専門看護師の分野認定などにもかかわらせていただき、2002年に小児看護専門看護師の認定をいただきました。2006年から現在の病院の開院準備室に勤務し、子どもセンターや併設している重症心身障害児(者)施設の看護部長をして、2017年から現職です。

看護師になったきっかけ

これといったはっきりした理由は、自分でも分かりません。なんとなくです。子どもの面倒を見るのはもともと好きでした。小さい時から友達も自分もみんな妹や弟を連れて遊んでいました。赤ちゃんが大好きだったので、赤ちゃんを扱う助産師さんになりたいと漠然と思っていました。でも、母性看護の実習で、赤ちゃんの誕生を目の前にした時、感動よりもびくりしてしまいました。私は、生まれる時よりもその後の赤ちゃんのことに携わりたいと思いました。

新人時代の思い出

新人の時は、先輩から受ける申し送りの内容を把握するのも難しいのに、それを踏まえて看護計画を発表すると先輩から「なぜそれをするの?」と質問攻めにあります。先輩の質問をかわす時間が手に汗握る緊張の時でした。その対策のためにいつも自分で「それはなぜ?」とひと

り問答し、答えられなければ調べるということが習慣となりました。今となっては厳しかった先輩に感謝しています。

小児看護の魅力

とにかく子どもはかわいい。その子どもが病気で大変な時は、助けになりたい。そして、その子どもを一生懸命に看病する家族の力も尊敬します。当時小さかった子どもが、大学生になったり親になったりした時に、再会することがあります。子どもを亡くした親御さまも病気の子どものために色々な活動してくださり、こちらが恩恵を受けることがあります。病気の時だけでなくその後の人の成長した姿に会えることも魅力です。かわった時には迷っていたことでも「あの時あれでよかったのかな」と看護の評価をもらえる気がしています。人が生きていく力のすごさにいつも励まされます。

ストレス解消法

美味しいお食事とワインをいただきながら、たわいもないおしゃべりをして笑うことが何よりもホッとします。いつもと違う空気を吸いたくすると旅行をします。色々な乗り物に乗るのが大好きです。

後輩たちに期待すること

患者さんと色々な人にSNSではなく直接かかわってほしいです。テキストやマニュアルには載っていない感情を揺さぶられることがたくさん現場にはあります。経験しないと分からない自分自身の喜怒哀楽が発見できるとより楽しくなります。看護のような人をケアする仕事は、100年後にも残るといわれていますので、ぜひ泥臭い人間関係づくりのために心身を鍛えてほしいと思います。

バトンを受けて欲しい人 🐦 萩原 綾子さん

研修会「発達障害の子どもへの関わりのヒントを得よう」についての報告

発達障害の子どもが非常に増えているといわれています。小児看護の現場では、施設や外来で発達障害の治療や相談などに関わっておられる方だけではなく、病棟に、発達障害の子どもが入院し、入院生活を理解してもらうことや、検査・処置の説明を行なう困難さを抱えていると言う声を耳にします。スタッフとして、どのように関わることが、発達障害の子どもにとって、また、周りの子ども達や保護者にとっても、自分たち看護職にとっても良いのか、基本的な発達障害の知識を深めることが求められています。この度、実際に病棟でどのように捉え、関わるのが大切かを学ぶ機会となるように研修会を企画しました。

テーマ：「発達障害の子どもへの関わりへのヒントを得よう」

開催日時：2019年12月14日(土)10時30分～16時

場所：大学共同利用施設UNITY(神戸市学園都市)

プログラム：

講義1：発達障害のある子どもの理解 ー作業療法士の視点からー
篠川裕子(神戸大学大学院保健学研究科 作業療法士)

講義2：“ちょっと気になる”子どもの手術・検査を通したかかわり
ーひとりひとりに応じたサポートの取り組みと課題ー
山地理恵(大阪市立総合医療センターホスピタルプレイ



スペシャリスト)

講義3：自閉症の子どもへの個別性のある関わり

Part1)採血への取り組み 川島桜、岡本由美(神戸大学医学部附属病院こどもセンター 看護師・保育士)、Part2)腎移植を受ける患児への内服、プレパレーションを通した術前後の関わり 丸山有加、岡本由美(神戸大学医学部附属病院こどもセンター 看護師・保育士)

参加者：47名(会員15名、非会員32名)

終了後のアンケート結果(回収率100%)：参加者は2～3年目の若手から臨床経験の長い方まで幅広く、勤務先は小児病棟に次いで混合病棟が多かったのですが、手術室や外来、小中学校で勤務されている看護職者もおられ、日々の現場で発達障害の子どもへの関わりに困難をお持ちの方々が研修会に参加していただけているようでした。また、研修会へ参加しての評価は、とても良かった・そう思う(100%)が多く、理由としては、自閉症児について改めて考えることができた、発達障害のある子どもへの関わりについて様々な職種の方から学ぶことができてよかった、日常の疑問や問題の解決方法を見出せたような気がした、自分の病院での取り組みにも加えたいと思った等でした。

普段、発達障害の子どもと関わることに難しさを感じていたり、普段じっくりと関わっていなかったと感じている参加者が、本研修からヒントを得て、どんな状況であっても一人ひとりに向き合っていく看護を提供できると良いと願っています。

日本小児看護学会第30回学術集会開催に向けて

● 神戸市看護大学看護学部 二宮 啓子



第30回学術集会の開催までいよいよ数カ月になりました。企画委員や学会理事の方々をはじめ多くの皆様からご支援を頂き、開催に向けて準備が進んでいますことをお礼申し上げます。

本学術集会のメインテーマは、「子どもと家族のセルフケアを支える看護」です。

これから日本は、人生100年時代を迎えます。医療の進歩に伴い、病気や障害のある子どもたちも成人期を迎え、いかに健康状態を良好に保ちながら、社会の一員として生き生きと生活できるかが問われる時代になります。しかし、病気や障害のある子どもは、親が心配のあまり子どもの行動を統制しやすく、また医療者は子どもが成長・発達しても診療においては親への説明が中心になりやすい傾向があり、セルフケアが育ちにくい環境にあります。そのため、子どもは、成人を迎えてもなかなか自立できないことが指摘されており、小児期から成人期への移行期支援が重要と考えます。

特別講演では、家族・教育問題、青少年のネット・スマホ利用、児童虐待などをテーマに豊富な取材実績をもとに、「スマホ廃人」、「ルポ居所不明児童～消えた子どもたち」など多数の話題作を発表している作家・ジャーナリストの石川結貴氏を招聘し、スマホ世代の子どもたちの生きづらさを理解し、どのように支えることができるのかについての示唆を得たいと思います。また、教育講演では、関西医科大学看護学部教授の片田範子氏に「子どもセルフケア看護理論から次へ」のタイトルで、既存のオレムのセルフケア不足看護理論を基盤に理論開発された、子どもセルフケア看護理論の開発プロセスについて、また、子どもへの看護活動にどのように理論を取り込み、アセスメントや必要な支援をどうデ

ザインするののかについてお話しいただきます。

シンポジウムでは、「子どもたちが生き抜いていくために、私たちにできること」について考えます。当事者、きょうだい、親のそれぞれの立場から生き抜くプロセスでの体験と体験から得られた生きることの意味についてお話しいただきます。また、子どもたちが生き抜くための支援をどう考え、実施しているののかについて看護師、ジャーナリストのそれぞれの立場からお話しいただき、子どもへの未来を希求し、エールを贈り、子どもの勇気をたえ続けるために私たちは何ができるかを考えていきます。

また、当事者とのコラボ企画として、病気や障がいのある人々の自立やセルフケアについて、小児期に発症した自身の病気や障がいをどのように理解し向き合ってきたのか、成長発達の過程で自立についてどのように考え、進学や就職を選択し、現在どのようにセルフケアを行いながら、仕事環境を整えているのかなどを自由にお話しいただきます。

さらに、2020年は、日本小児看護学会にとって30周年の年にあたり、本学術集会で記念講演やパネル展示などの記念事業も計画されています。記念講演では、国連の子どもの権利委員会の委員を務めている弁護士の大谷美紀子氏による「子どもの権利」についての講演が行われます。

10年ぶりに日本小児看護学会の学術集会が神戸で開催されます。梅雨の時期の開催となりますが、会場はアクセスがよく、雨でも最寄り駅からぬれずに会場に到着できます。また、懇親会では神戸発祥のフレンチとローストビーフをお楽しみいただけます。

2020年6月27日(土)・28日(日)に皆様にお目にかかるのを楽しみにしています。また、多くの皆様の演題登録、並びにご参加を心よりお待ちしております。



広報委員会メンバー

- 委員長：上別府 圭子
- 委員：安田 恵美子、古谷 佳由理、小川 純子(第55号編集長)、西垣 佳織、田村 恵美、佐藤 伊織